

第3回 能登半島絶景海道の創造的復興に向けた検討会

議事要旨

日時：令和7年7月31日（木） 14：30～16：30

場所：能登復興事務所 4階 会議室

出席者：（会場）

有識者委員：藤生委員長、山中委員、片桐委員、刀祢委員、
白井委員、竹内委員

行政委員：石川県 道路建設課、石川県 道路整備課、
北陸地方整備局

（WEB）

行政委員：石川県 観光戦略課、七尾市、輪島市、珠洲市、
羽咋市、志賀町、穴水町、能登町

議事概要（各委員からの主な意見）

<新たな絶景・メモリアルパーツに関する意見>

- ・奥能登地域では、大きなイベントをやるスペースがなくなっており、隆起した海岸をいろんなイベントで利用できるような仕組みを現段階から検討してはどうか。
- ・隆起した海岸を利用するイベントについて、観光要素を盛り込んではどうか。
- ・道路協力団体や地域活動団体等を中心に活動を広げていくことができれば、実りのある取り組みになるのではないか。
- ・新たなビュースポットや、隆起した海岸等を利用したイベントができる場所には、屋根の設置を検討してほしい。
- ・隆起した海岸は今までにない景観になるため、寄り道パーキングやポケットパークを整備する場合は、景観に配慮したデザインを丁寧に検討するべき。

- ・中越沖地震の震災遺構のうち、屋外のものには風化している。メモリアルパーツを保存する場合は、しっかりした建物を造り屋内で保管することも検討をするべき。
- ・メモリアルパーツや新たな絶景を発信していく場合、震災前の状況やストーリーも含めてしっかりと伝承する必要がある。
- ・海外へのプロモーションについて、ターゲットを明確にした上で、地域へのローカルガイドの配置等、具体的な検討を行うべき。また、補助金を活用しながら官民連携で実施してはどうか。

<サイクルツーリズムに関する意見>

- ・サイクルツーリズムについて、受け入れ環境の整備や案内ガイドの養成等について追加するべき。
- ・能登半島は「道の駅」が多いため、それらを地域のハブ・拠点にし、ビジターにとってどこが自分に向いているコースかわかるように、難易度別で複数コースを設定し、出発地と目的地ではどのようなことができるのか等をマップに記載すると良い。
- ・現在の表現では“ぐるっと周遊”することが目的のように感じるが、宿泊や食事を含めて能登半島でいかに滞在時間を長くしてもらうかがポイントとなるように広報すべき。
- ・サイクリスト・車・バス等のターゲットを明確した情報発信が必要。

<風景街道に関する意見>

- ・風景街道の取り組みについて、どのようにつなげていくかが重要である。活動団体の状況（活動内容、活動意向等）を調査し、市町を巻き込んで活動団体を整理し、協力を依頼するが良い。
- ・サイクルツーリズムにも活動団体等の協力は必要である。風景街道の取り組みにサイクルツーリズムも含めてはどうか。

<新しい取り組みに関する意見>

- ・多くの人に認知していただくには時間がかかるため、「道の駅」リレーイベントを一過性のイベントにするのではなく、10年を目標に継続が重要である。
- ・「Noto Grand Scenic Coastal Route」は能登半島絶景海道全体の英語表記とし、「能登半島外浦エリア」「奥能登絶景海道エリア」「能登半島内浦エリア」にはそれぞれの特徴を反映した英語表記が別にあると良い。
- ・今後、能登半島絶景海道以外にもサイクルルート等のロゴマークについても複数検討されると思うが、案内看板への掲載について、ロゴマークを複数掲載できるようなデザインも検討してはどうか。
- ・取り組み全体の一体感を醸成するために、ステークホルダーを対象とした小さなツアーを実施してはどうか。
- ・数百 km の遠距離地から標識・案内看板を活用して、能登半島の先端に人を誘導することができれば広く集客でき、道中のエリアの賑わいにもつながるのではないかと。

<能登半島絶景海道の創造的復興に向けた基本方針素案に関する意見>

- ・「能登半島絶景海道の創造的復興に向けた4本柱」について、案内看板や情報発信等の誘客のためのシステム等に係る取り組みを5本目の柱としてはどうか。
- ・考えられる取り組み（案）のスケジュールについて、実施主体を記載して、組織として取り組む体制を明確にすると良い。

以上